『夏の延滞』

木村 繚真　作

○登場人物（女性4名）
雛乃
瑠衣
新名（にいな）
滝川先生

幕が開く。
舞台は図書室。中央に大きめの窓（2枠以上）。窓の下方にはベンチソファが2台、壁に沿って並んでいる。そのソファの両脇には、窓枠の高さまでの本棚が並んでいる。窓から中庭の樹木が見える。夏の陽光に照らされ、緑が輝いている。
8月上旬。午後1時ごろ。滝川先生、雛乃、瑠衣がいる。

滝川　じゃあ5時までね。
雛乃　ありがとうございます。
滝川　業者さん明日の午前中に来るから、午後には大丈夫だと思うんだけど、絶対直してくださいね？うちらの人生かかってますから。
瑠衣　お、おう、伝えておくよ。
滝川　困らせないでよ。
雛乃　だって先生かわいいんだもんー。
瑠衣　関係ないじゃん。
滝川　わたしも3年目だからね？もう新人とは言わせないよ？
雛乃　早いですねぇ。
滝川　2人はこの夏休みが勝負だ。
瑠衣　やだぁー。
滝川　じゃ、帰るとき声かけてね。わたしいなかったらほかの先生に鍵頼んで。
雛乃　はい。
瑠衣　担任やって司書やって、部活の顧問までやるなんて、大変だねタッキー。
滝川　あら、ありがとう。2人もがんばって。
雛乃　がんばります。
瑠衣　あざまーす。

滝川先生去る。瑠衣、鞄をソファに置き、横たわる。

雛乃　なんだか急に意気消沈って感じ。
瑠衣　それなぁ。

雛乃も鞄を置いて腰掛け、だらりと天井を見上げる。
蝉が鳴き始める。しばらくの間。

瑠衣　寝そう。
雛乃　快適だぁ。
瑠衣　電気代と地球環境を生贄に捧げてるがぁー。
雛乃　エアコンはなくてはならないよー。
瑠衣　んあぁー。
雛乃　そういえば綾香って帰った？
瑠衣　図書館行くって。
雛乃　だよねー。
瑠衣　のん子は家帰ったし。
雛乃　集中できないんだよなー、家も図書館も。
瑠衣　うちらだけだよ、自習室に入り浸ってるの。
雛乃　あそこちょうどいいんだよねぇ。オオヤケとワタクシの狭間っていうか、
瑠衣　ただ集中力ないだけでしょ。
雛乃　あるしー。
瑠衣　じゃあ勉強しなよ。
雛乃　……ここは、ノスタルジックすぎる。
瑠衣　……そうだね。
雛乃　本たちが、わたしに語り掛けてくる。
瑠衣　なんて？
雛乃　「お前は無知だ。知るべきことが山積みだー」って。
瑠衣　そりゃあプレッシャーだねえ。困った困った。
雛乃　あれ？もしかしてうちらって、場所を言い訳にしてる？
瑠衣　げえ。気づいた？
雛乃　逃げてたわー。直視することから逃げてたあー。
瑠衣　過去形？
雛乃　いや、現在進行形。
瑠衣　まぁ、8月になったばっかだし？
雛乃　ふっ。高校3年生の言葉とは思えない。
瑠衣　勝負ってさぁ、何と闘ってんだろ。
雛乃　そりゃあほかの受験生でしょ。
瑠衣　あーやだやだ、ほんとめんどくさい。あーぁあー。

照明、一瞬消える。

2人　え？
雛乃　いま暗くなった？
瑠衣　なった。
雛乃　ぜんぶ消えたよね？
瑠衣　消えた。

雛乃　やっぱ古いんだよなぁ、校舎全体が。
瑠衣　数年後には廃校かもだし、直す気ないんじゃない？
雛乃　エアコンは死活問題。
瑠衣　明日直ればいいけど。

照明、消える。４秒後、点く。

２人　……。
雛乃　あのさ、
瑠衣　うん。

２人、身を寄せる。

雛乃　普通、電気消えてもさ、真っ暗にはならなくない？
瑠衣　カーテン開いてるしね、
雛乃　閉まっててても、ね、
瑠衣　あそこまで、暗くならない、
雛乃　よね。
瑠衣　うん。絶対ならない。
２人　……おかしい。

照明、また消える。

２人　え？ちょ、何？えっ、これ、なんなの？やばくない？やばい。コレ、何？意味わかんない、どうなってんの？？ちょっと、マジで何？！

暗闇が続く。

瑠衣　ねぇ雛乃スマホある？
雛乃　あっ、あるあるある！
瑠衣　ライトライト！

雛乃、スマホのライトを点ける。

瑠衣　あぁー偉大だっ、光は偉大だよジョセフぅ、もしくはエジソンーーっ。

雛乃、周囲をぐるっと照らしてみた。一瞬、窓の向こうに何かが見えた。
向き直って固まる雛乃。

瑠衣　ね、そと出よ？

雛乃　……。
瑠衣　雛乃？
雛乃　めっちゃ怖いこと言っていい？
瑠衣　このタイミングで「いいよ」って言うと思う？
雛乃　窓のところになんかいた。
瑠衣　やめてよぉーーー（雛乃にしがみつく）。
雛乃　だってほんとだもん、
瑠衣　わたし漏らすよ？
雛乃　え、絶対やめてよ、
瑠衣　雛乃が変なこと言うからじゃん！
雛乃　だっていたんだもん！
瑠衣　過去形？
雛乃　……。

恐る恐る、ライトを窓に向ける。
窓の向こうに、新名が立っている。窓に張り付き、２人をニヤリと見ている。

２人　ぎゃあああああああああああ！！！！！

２人、よたよたバタバタと逃げ去る。暗闇の中、かすかに笑い声が聞こえる。
明。誰もいない。
そこへ滝川先生、瑠衣、雛乃がやってくる。滝川先生が先頭で、辺りを見回す。

滝川　なんともないけど？
瑠衣　いや違うんですって、ほんとにほんとなんですよ。
雛乃　暗くなって、なんにも見えなくなって、窓の、
瑠衣　外にいたんですよ、そこ。ね、絶対そうだよね？

２人、頷き合う。

滝川　あのね。冗談で済まないこともあるんだよ？
瑠衣　違うんですって！
滝川　違わない！
瑠衣　……。
滝川　いるわけないじゃない。
雛乃　いや、だってほんとに、
滝川　がっかりした。

滝川先生、２人を冷たい目で見たあと、去る。立ち尽くす２人。

瑠衣　夢？
雛乃　２人でおんなじ夢見る？
瑠衣（目をこすって）ありえないよなぁ……。
雛乃　どの道ありえない。

２人、窓を見つめる。

雛乃　開けてみる……？
瑠衣　待って。
雛乃　ん？
瑠衣　ちょっと、ビンタしてくんない？
雛乃　なんで。
瑠衣　念のため。
雛乃　じゃあ、本気でやっていい？
瑠衣　え？
雛乃　バァーンって、日頃の恨みを込めて。
瑠衣　恨みあんの？！
雛乃　いやないけど。
瑠衣　ないんかい。
雛乃　じゃあちょい痛で。
瑠衣　ちょい痛な。

雛乃、まぁまぁ強めに引っぱたく。

瑠衣　いっ、たあぁ……！
雛乃　ごめん、ちょっ、思ったより（笑う）、
瑠衣　今の、マジ８０パーとかじゃない？
雛乃　いや７０パーくらいじゃない？
瑠衣　変わんないわ。
雛乃　でも正気だよね？
瑠衣　痛いからね。うん、正気だと思う。
雛乃　じゃあ開けてみよう。
瑠衣　うん。あ、私こっち開けるわ。
雛乃　おっけ。
２人　せーの！

２人、意を決して開ける。
すると瑠衣のほうの窓の向こうに新名が出てくる。

新名　バァッ！

瑠衣　ぎぃやあぁぁあああああ！！

瑠衣、逃げ去る。

雛乃　えっ、えっ、ええええええ？！

雛乃、後ずさり。

新名　あっはっはっは！やば、マジで、おもろ。めっちゃ驚くじゃん、っはっは、お腹痛い。

雛乃　……。

新名　はぁーっ。

雛乃　にいな……？

新名　（微笑み、）よっ。

雛乃　……どういうこと？

新名　どういうことだろうね。

雛乃　にいななの？

新名　にいなだよ。

雛乃　……、なんで？

新名　んーー。

雛乃　こんなこと、ありえないじゃん……。

新名　まぁ、この世には、謎が多いってことで（苦笑い）。

雛乃　その笑い方……、にいなぁ……！

雛乃、新名に駆け寄る。

新名　ストーップ！

雛乃　えっ？

新名　私にふれたらどうなるか分かんないよ？

雛乃　ってか、さわれるの？

新名　わかんないけど、覚悟の上なら、さわっていいよ？（手を出す）

雛乃　え、なんかキモい。

新名　キモい？！

雛乃　いや、改まって言われるとなんかヤダ。

新名　ひどー。

雛乃　感動の再会の勢いでガーッと行くならいいけど、

新名　一回冷めちゃったのか。

雛乃　だってどうなるか分かんないって言うから、

新名　だってそうじゃん、私だってよく分かってないんだもん。

雛乃　……それ、いまどういう状況なの？

新名　いや、さっきまで、一面真っ白のふわふわしたとこに浮かんでたのよ。

雛乃　浮かんでた？
新名　きもちーなーなんて思ってたら、なんか中庭にいて。
雛乃　はあ。
新名　パッと見たら、雛乃と瑠衣が見えて。
雛乃　ほう。
新名　こりゃあいい、おどかしてやろうと。
雛乃　性格悪くない？！
新名　ごめんて。
雛乃　めっちゃ怖かったんだからね？
新名　いや、なんかぎゃあぎゃあ言ってたけどさ、電気は私の仕業じゃないから。
雛乃　でも電化製品に影響するとかいうじゃん。
新名　知らないよ。
雛乃　それにしたって驚かす必要ないじゃん。
新名　だって久しぶりだったんだもん。
雛乃　え、なに、久しぶりって感覚はあるの？
新名　ある。
雛乃　へぇー。
新名　なんか時間経ってるのは分かるんだよ。
雛乃　その、ふわふわ空間で？
新名　うん、そうそう。でも心地良すぎて、時間経ってる気がしない。
雛乃　相対性理論的な？
新名　いや分かんないけど、なんかたぶん、神聖な、アレなんじゃない？
雛乃　神聖なアレ？
新名　アレ。

雛乃、妙にツボって笑う。

新名　どこにツボってんの？
雛乃　ぜんぶだよ。もう意味わかんないんだもんこの状況。神聖なアレってなんだよ。
新名　まぁね。そうだよね。
雛乃　はぁー、もう夢でも幻覚でもなんでもいいわぁ。
新名　いまって何年生なの？
雛乃　3年生。
新名　受験？
雛乃　じゅけんーー……。
新名　大変だね。
雛乃　大変だよー。みんな目つき変わっちゃってさぁ。ピリピリしてんの。嫌になる。
新名　そっかぁ。

間。

雛乃　ごめん。
新名　あぁ、ううん。全然。なんか、まだ実感ないんだよね。
雛乃　……。
新名　彼氏できた？
雛乃　できてません。
新名　なぁんだ。
雛乃　瑠衣はいた。
新名　過去形？
雛乃　……うわぁーー。
新名　え？
雛乃　そうだわ。
新名　何が。
雛乃　「過去形？」って、にいながよく言ってたんだぁ、口癖。
新名　あー。
雛乃　だからうちらにも移ってさぁ。うわ懐かし。
新名　じゃあ移植成功だ。ぴゅっ（雛乃に触れる）。
雛乃　……。

雛乃、手のひらを出す。

雛乃　お手。

新名、手をグーにして、雛乃の手のひらに乗せる。
間。

雛乃　あのさ、
新名　ん？
雛乃　手ぇめっちゃ冷たいよ？
新名　うそ。
雛乃　触ってみて。
新名　んー、自分じゃ分かんないわ。
雛乃　氷みたい。
新名　それにしちゃリアクション違くない？
雛乃　いや、なんか、台無しになる感じしたから。
新名　演出しなくっていいって。
雛乃　ふふ、つい癖で。
新名　あれ？部活引退した？
雛乃　うん、したよ。
新名　部員入った？

雛乃　今年は４人。
新名　絶妙ー。
雛乃　入ってくれてよかったよ。
新名　雛乃が部長だった？
雛乃　副部長。
新名　あー。そのほうがぽいかも。
雛乃　ぽいでしょ。
新名　自覚あるの？
雛乃　ある。
新名　変なの。
雛乃　変だろー。
新名　変だわー。

そこへ瑠衣が戻ってくる。

瑠衣　あんたら普通に喋ってんな！！
新名　うわっ、なんか来たー。
雛乃　うわーー。
瑠衣　それ私に言うの？！
新名　逆か。
瑠衣　逆だし、ほんとにあんたが　にいなかどうか分かんないんだからね！
雛乃　いや、にいなじゃん。
瑠衣　ちょっと、こっち。
雛乃　なに。

２人、新名から離れて話す。

瑠衣　あの子、にいなの振りしてんじゃない？
雛乃　振りって、なんで？
瑠衣　新手の詐欺だよ。闇バイト。
雛乃　なんの得にもならないでしょ。
瑠衣　あっ、何かの勧誘だ。
雛乃　あー。
瑠衣　ね？ありそうじゃん。
雛乃　でも口癖あってるし、笑い方なんて　にいなそのものだよ？
瑠衣　じゃ双子だ！
雛乃　いや、いなかったじゃん。いたら気づくよ、あのとき。
瑠衣　……じゃあなんなの？
雛乃　だから本物だって。話してみなよ。

雛乃、瑠衣の背中を押す。

新名　やほー（笑って手を振る）。

瑠衣、雛乃のところへ戻ってくる。

瑠衣　にいなだあーー！！

雛乃　だから言ってるじゃん！

瑠衣　なんで??どういうこと??中庭行ったら普通にいるの??

雛乃　……確かに。

瑠衣　にいな！

新名　ん？

瑠衣　今からそっち行くわ（駆け去る）。

新名　はーい。

雛乃　どうなるの？

新名　わかんない。

瑠衣、窓の向こう側（中庭）に出てくる。

雛乃　どうー？

瑠衣　どこ行ったのー？

雛乃　え？

瑠衣　いないよ？

雛乃　え、ここにいるけど。

瑠衣　え、見えないんだけど。

雛乃　ここ（指す）。

瑠衣　マジ？

瑠衣、新名に触れようとすると、新名は避ける。都合上ね。

雛乃　えっえっ、すり抜けてる、すり抜けてるように見えるーっ！！

瑠衣　え、何これ今、すり抜けてんの？！（何度も触れようとする）

雛乃　うん！すり抜けてる！新名は全然動いてないのに、すり抜けてる、ように見えるーっ！

新名、別の窓へ行って、

新名　なんか物貸して。

雛乃　物？

雛乃、本棚から本を取って渡す。

瑠衣　えええええ？！
雛乃　なに。
瑠衣　ほ、ほ、本が！浮いてるー！！
雛乃　あっ、そうなるの？
瑠衣　これ、新名が持ってんの？！
雛乃　うん。
瑠衣　すごー！ポルターガイストじゃん！

新名、本を鳥のように羽ばたかせる。

瑠衣　うぉおお！鳥！鳥みたい！ね、雛乃見えてる？！
雛乃　いや、私からは　にいながバカやってるようにしか見えない。
新名　あっはっはっは！
瑠衣　うひーっ！すげぇー！
雛乃　いや、バカ2人か。

2人は中庭をのびのびと走り回る。雛乃、その様子を微笑ましく見ている。
やがて2人は消える。ソファでぼーっとする雛乃。
冷房がかかっているのに窓を開けていることに少し罪悪感があるなぁ、なんて。

雛乃　あれ？

エアコンが動いていないことに気付く。瑠衣が戻ってくる。

瑠衣　いやー、この世はアンビリバボーだわー。
雛乃　にいなは？
瑠衣　本読んでる。
雛乃　さっきの？
瑠衣　うん。っていうかさ、エアコン止まってない？
雛乃　そう、私もいま気づいた。
瑠衣　にいなの影響？
雛乃　あー、
瑠衣　自習室のエアコンも。
雛乃　あっ、そうだわ。そうかも。
瑠衣　でも涼しくない？中庭も暑くなかったよ。
雛乃　あの子の手めっちゃ冷たいんだよ。
瑠衣　あー、そういう感じ？
雛乃　空気もひんやりするのかな。
瑠衣　エコだね。

雛乃　このまま冬に戻ったりして。
瑠衣　……それはありだね。

間。

瑠衣　タッキーってさ、
雛乃　うん？
瑠衣　どれくらい入院してたっけ。
雛乃　……どうだっけ。
瑠衣　2学期には、まだ戻ってなかったよね。
雛乃　うん、だと思う。
瑠衣　にいな、私たちよりも会わなきゃいけない人、いるんじゃないかな。
雛乃　……。
新名　誰？
2人　おぁあーーっ！！？

窓からひょっこり顔を出した新名に驚く2人。

瑠衣　びっくりしたぁ。
雛乃　だからいちいち脅かさないでって。
新名　えっへっへっへ（本を雛乃に差し出す）。
雛乃　もういいの？
新名　うん。それよりさ、探して欲しい本があるんだけど。
雛乃　なに？
瑠衣　あれっ？
新名　ん？
雛乃　どしたの。
瑠衣　窓からなら、こっち来れるんじゃない？
新名　あー。
雛乃　え、なんの話？
瑠衣　さっき渡り廊下から一緒に中入ろうとしたんだけど、ね。
新名　うん、入れなかったのよ。
雛乃　どういう感じで？
新名　こう、こういう壁が、こう
瑠衣　パントマイム下手ぁ。
新名　はぁ？でもエスカレーターめっちゃうまいからね私。
瑠衣　やってみー？

新名、エスカレーター（下り）をやってみせる。

雛乃　あぁ、じょうずじょうずー！（拍手）

上りもやる。

雛乃　おー（拍手）。

新名　いやなんの時間？

瑠衣　自分で振ったんじゃん。

雛乃　よし、じゃあやってみよう。ハイ、来て。

新名、窓枠のレール部分に両手をかけて図書室側に来ようとする。

雛乃　おっ！

瑠衣　上半身こっち来てるじゃん！

新名　いや、これ、ちょっ、無理かも……！

雛乃　ぐっと、がっと、足、掛けれない？

新名　なんか、足が上がんない！

雛乃　それは運動神経の問題？

新名　オイッ。

瑠衣　まずダイエットが必要なのかも。

新名　喧嘩売ってんのかあ？

雛乃　引っ張ってみる？

瑠衣　おっけ。

2人、片腕ずつ持って引っ張る。すると一瞬照明が消える。

3人　！？

雛乃　ちょっと、にいな！

新名　私じゃないって！

照明再び消える。

瑠衣　じゃあなに！

新名　知らないよ！

雛乃　放す？

瑠衣　放す！

新名　え、ちょっ待っ、

手を放すと中庭に倒れる新名。雛乃と瑠衣は室内に尻もちをつく。照明が点く。

瑠衣　いったぁ。

雛乃　大丈夫？
瑠衣　大丈夫。

2人、中庭を覗き込んで、

2人　ごめーん。

新名、すくっと立ち上がる。

新名　頭打ったけどぜんっぜん痛くない。それよりなんか首が痒い（首の右側を掻く）。
2人　……。
新名　まぁ結果、上半身まで。
雛乃　だね。
瑠衣　ってかなんでこっからだけ見えるんだろ。
雛乃　廊下の窓からも見えなかった？
瑠衣　見えなかった。
新名　たぶん、2人はもう覚えてないかもだけど、私この図書室と中庭が好きなの。
雛乃　覚えてるよ。
新名　（客席を見て、）よくそこの席に座ってた。本の匂い。静けさ。光のあたる読書スペースと、薄暗い書架コーナーのコントラスト。部屋の奥の角には、空気がひっそり溜まってる。この窓を開けると柔らかい風に乗って、緑の匂いが入り込む。遠くから、いろんな物音、みんなの声が聴こえてくる。沈黙してた本たちが、図書室全体が、私が、息を吹き返すような新鮮な感覚になった。
瑠衣　うちらも、入学してすぐは、よく来てたよね。
雛乃　うん。中庭でも、よく遊んだ。
瑠衣　にいなは、鯉に餌やってたよね。
新名　うん。近づくだけでパクパクしてさ。かわいくって。

3人、中庭の池を見る。

新名　いつ？水、抜いたの。
2人　……。
新名　死んだの？
瑠衣　ううん。なんか……、いろいろあって、別のところに移された。
新名　いろいろって？
瑠衣　もう、2年前だし、覚えてないや。
新名　でも、生きてるんだね、みんな。
瑠衣　うん。
新名　よかった。

間。

雛乃　にいな。
新名　ん？
雛乃　さっきの、探してほしい本って何？
新名　あぁ。重松清さんの、『きみの友だち』って本。
雛乃　それが、読みたいの？
新名　ううん。借りっぱなしなの、わたしが。
瑠衣　それ、いま思い出したの？
新名　うん。さっきパタパタやってたとき。なんか引っかかるなぁって、思ってたの。
雛乃　あるかどうか、見ればいい？
新名　うん。
雛乃　もしなかったら？
新名　返したい。
瑠衣　その本を返すことは、重要なこと？
新名　みんなの本だから、返さないと。あるべきところに。
雛乃　……探してみる。
新名　ありがと。
雛乃　ううん。

雛乃、図書室の奥（出入口とは反対側）に去る。

瑠衣　そういえば、にいなってそんな奴だったね。
新名　ふふ、バカにされてる？
瑠衣　してない。
新名　そうかなぁ。
瑠衣　責任感。すごいなぁって、思ってた。
新名　過去形？
瑠衣　……今も。
新名　いえーい。褒められたぜぇ。へへ。

瑠衣、深く息を吐く。

新名　大丈夫？
瑠衣　にいなこそ。大丈夫なの？
新名　んー。日曜日に、布団の中で、まどろんでる感じ。
瑠衣　午前１０時？
新名　ふふ、それはお母さんが「起きろー！」って騒ぐ時間だ。
瑠衣　……いいね。
新名　……あんまり思い出せないの。楽しかったことだけ覚えてる。穏やかで、幸せだよ。

瑠衣、ソファに横になり、腕で顔を覆う。

新名　入学してすぐのオリエンテーション合宿、楽しかったよね。いきなり宿泊って緊張したけど、森の中で謎解きしたり、チェックポイント探したり、いっぱい歩いたよね。夜はみんなで一緒にご飯食べて、自己紹介ゲームやったり、フルーツバスケットやったり、瑠衣と雛乃が私をクラス会長に推したから、ホントにやることになっちゃったり。

瑠衣　もういいよ、

新名　夜更かししたね。たくさんおしゃべりした。この時間がずっと続けばいいのにって、寝るのが惜しくって、眠気に耐えてまどろんで、いつの間にか夢に落ちてた……。雀の鳴く声。みんなの寝息。陽の光が透ける窓の障子。朝の澄んだ冷たい空気。山の緑、空の青さ、ラジオ体操。昨日のように覚えてる。みんなの声も、笑顔も、

瑠衣　やめてよ……！

瑠衣、声をこらえて涙を流している。

間。

雛乃が戻ってくる。手には本。

雛乃　どした？

瑠衣　顔洗ってくる。

瑠衣、去る。

雛乃　どしたの？

新名　死相が出てた。

雛乃　え？

新名　笑って欲しかったんだけどなあ。

雛乃　……。

新名　あっ、それ。

雛乃、本を渡す。

雛乃　あってる？

新名　あってる、けど、こんな綺麗だったかなぁ。

雛乃、寒気を感じ、腕をさする。辺りを見回す。

一旦出入口側の袖へ去り、ブランケットを肩にかけて戻ってくる。

新名　なんで？

雛乃　気にしないで。

新名　ねぇここ、見て。ハンコ。去年の春。
雛乃　……じゃあ、新名が借りたやつじゃないってこと？
新名　うん、たぶん。だからまだどっかにあるんだと思う。
雛乃　どっか？
新名　家かなぁ？持って帰ったかなぁ。曖昧。
雛乃　いつ借りたの？
新名　んー、期末テストが終わったころ。滝川先生が薦めてくれたの。
雛乃　タッキーが？
新名　うん。タッキーさ、新卒でうちらと一緒に入ったじゃない？
雛乃　同期ね。
新名　そうそう、言ってたよね。
雛乃　ちょっとは貫禄出てきたよ。
新名　うん、実はちょろっと見てた。
雛乃　あ、さっき？
新名　うん。引き締まった顔つきに、堂々としたふるまい。
雛乃　えぇ？そうかぁ？
新名　2年ぶりに見たらね、そう感じるんだよ。
雛乃　あー、近くにいると分かんないか。
新名　わたし、タッキーのこと心配だったの。
雛乃　心配？
新名　あの人、絶対先生向いてないって。
雛乃　そういえば、そうだったかも。
新名　緩くてちょっと天然で、その癖いっぱい仕事抱えてさ。でも友だちみたいに対等で、優しかった。
雛乃　変わった？
新名　雰囲気がね。最初分かんなかったもん。
雛乃　いろいろ、あったんだよ。
新名　いろいろ？
雛乃（不意に泣きそうになる）それより本！どうする？返したいなら、私ほかも探してみるけど！
新名　いいの？
雛乃　でもそれよりも、にいなのお母さんに来てもらおうよ。
新名　え？
雛乃　きっと、絶対、会いたいよ。にいなもそうでしょ？

間。

雛乃　どう？
新名　やめたほうがいいと思う。
雛乃　誘い方は、うまく考えるから。わたし、台本書いたことあるし。
新名　そうじゃなくって、

雛乃　うん？
新名　うちのお母さん、メンタルお豆腐だから。いま、どうしてるか知らないけど、
　　もし会ったら、どんなことになるか分からない。
雛乃　……。
新名　会った？うちのお母さんに。
雛乃（頷く）
新名　どうだった？
雛乃　……、言い表したくない。言葉じゃ、軽すぎる。
新名　……。

　　雨が降ってくる。新名、客席に背を向け天を仰ぐ。雨粒は、新名の体をすり抜けていく。
　　雨脚が強まっていき、やがて土砂降りになる。
　　暗闇。土砂降りの音の向こうに、新名の母の慟哭が微かに聴こえる。
　　やがて、雨音ＦＯ・蝉の声ＦＩ。暗闇から滝川先生の声が聞こえる。

滝川　聞こえる？大丈夫？

　　溶明。ソファに横たわっている雛乃。肩を叩いて声をかけている滝川先生。
　　雛乃、目を覚ます。

滝川　あぁ、よかった。

　　胸をなでおろす。そばには瑠衣もいる。上体を起こす雛乃。支える瑠衣。

瑠衣　何があったの？
雛乃　……わかんない。雨が降ってきて、それで、
滝川　雨？雨なんて降ってないよ？
雛乃　え？
瑠衣　今日はずっと晴れ。まぁ、冷え込むことはあったけど（ブランケットをたたむ）。
雛乃　にいなは？どこ？
滝川　まだそんなこと言ってるの？
雛乃　ねぇ。
瑠衣　わかんない。戻ってきたら雛乃が倒れてて、
雛乃　にいな、借りた本返したがってる。
滝川　借りた本？
雛乃　先生が薦めた本です。
滝川　……、

　　雛乃、ソファに置かれた本を手に取り、滝川先生に差し出す。

雛乃　これ。
滝川　……なんで、
雛乃　先生、にいなが借りたの知ってますよね。返してないのも。にいなは自分の持ってる本を返したがってます。それが一番の理由かどうか分からないけど、きっと にいなは何か、
滝川　違う。
雛乃　先生、
滝川　もとの本は、私が持ってるから。
2人　え？
滝川　……あの日、新名さんは、中庭でこの本を読んでたの。一学期終業式の日。午後1時。学校に、男が侵入した。ベンチに座る新名さんの、右斜め後ろから、男は、新名さんの首にナイフを刺した。刺したナイフと、スカートの腰元を持って、男は新名さんを目の前の池に放り投げた。
瑠衣　先生、
滝川　ナイフが抜けて血が飛び散った。
雛乃　やめてください。
滝川　私は、すぐそばの、その（指す）、渡り廊下にいた。目の前で見た。
雛乃　先生、
滝川　いい？ねぇ。聴いて。受け止めることはつらいことだと思う。私も、こんなことなら教師になんてならなきゃよかったって、私も致命傷だったら良かったのにって、思ったよ？「浮かれてる女にイラついてた」なんて、身勝手な理由で人を傷つける奴がいるこの世の中に絶望したよ……？でもね、でも……、でも、

言葉が続かない。
照明、消えてすぐに点く。
滝川先生、見上げる。顔を見合わせる雛乃と瑠衣。
照明、4秒消えてまた点く。

滝川　なに？いまの……。
瑠衣　先生。どうか、お願いします。今だけ信じてください。
滝川　あなたたちは、
雛乃　わたしたちじゃなく先生の、信じたい気持ちを、信じてください。
滝川　そんなこと、したってどうにもならないよ。

照明消える。中庭の木々の緑が、光を帯びていく。
窓の向こうから、陽光ではない光が射し込んでくる。
新名がひょっこりと顔を出す。

新名　やっほー。

手を振る新名。滝川先生、開いた口が塞がらない。手も顎も、全身が震える、

呼吸が乱れる、目の前が、滲む。

新名　タッキー、って、なんかもう呼びづらいな。

涙があふれる滝川先生。

滝川　新名さん……？

新名　いまの話、聞いちゃった。……私、刺されたんだね。

3人　……。

新名　（涙を堪える）先生。せんせいも、刺されちゃったの？

滝川　……（頷く）。

新名　どこ？

滝川　背中（背中の右側を押さえる）。

新名　痛かったよね？

滝川　（首を横に振る）わたしは、私は腎臓ひとつ、無くなっただけ……！

新名　もう1個あるの？

滝川　（何度も頷く）

新名　そっか。助かってよかった。

滝川　（嗚咽）

新名　先生。あの本、途中までしか読めなかった。

滝川　（頷く）

新名　でも、先生があの話が好きなの分かった。

滝川　わかった？

新名　（頷く）人は、かなしみで繋がってる。かなしいから、優しくなれる。ほんとうに大事な人を、大事にできる。

滝川　……新名さん。こんな、頼りない、先生らしくない先生に、優しくしてくれてありがとう。

新名　（微笑み、）立派になったね。

滝川　（泣き笑い）見送りたかった。新名さんが、卒業するのを見たかった。

新名　……先生。

滝川　うん……？

新名　借りた本、私の代わりに、返しておいてくれますか？

滝川先生、大きく頷き、

滝川　うん。ちゃんと、返すね。あるべきところへ。

新名　ありがとう、タッキー。

笑顔の新名。すべての照明消える。暗闇。

遠くに蝉の鳴き声が聞こえる。溶明。新名はいない。光が消える前の状態のままの3人。

滝川　……2人とも、ごめんなさい（頭を下げる）。
雛乃　やめてください。
滝川　ごめんなさい。
瑠衣　先生も、にいなのこと、ずっと大事に思ってるんですよね。
滝川　この学校の職員みんな、地域の人たちもみんな、新名さんを忘れない。もう絶対に、同じことを二度と、繰り返させない。
瑠衣（何度も頷き、）絶対。
雛乃　うん。

大きな息を吐き、立ち上がる滝川先生。

雛乃　大丈夫ですか？
滝川　まだ、信じられないけど、でも、とにかく私は、本を返さなきゃ。
雛乃　返したら、もう、会えなくなっちゃうのかな。
瑠衣　そのつもりだったんじゃないの？
雛乃　そうだけど……。
滝川　叶えなきゃ。新名さんの願いなら。

瑠衣、図書室を見回す。雛乃は中庭に目をやる。

瑠衣　私、この学校オンボロだけど、無くなるの嫌だ。
雛乃　私も。
瑠衣　統廃合、切り抜けられますか？
滝川　今、みんなが頑張ってる。学校の魅力が伝わるように。なにより安全であるように。生徒・職員みんなでこの学校を守ろうとしてる、立ち直ろうとしてる。今、2人にして欲しいことは、しっかりと学ぶこと。自分自身の未来のために。
2人（小さく頷く）
滝川　まだ残っていく？
2人　はい。
滝川（頷く）

滝川先生、窓のほうを一瞥し、微笑んで去る。

瑠衣　……で？
雛乃　ん？
瑠衣　終わり？
雛乃　さぁ。
瑠衣　結局、にいなに何もしてあげられない。本を返すだけ？

雛乃、一旦ブランケットを片づけに去り、戻ってくる。

雛乃　同窓会しよう。
瑠衣　同窓会？
雛乃　1年生のときのクラスメイト集めて、ここで謎解きゲームとか、フルーツバスケットとか。
　一緒にご飯食べて、夜更かしして、朝はラジオ体操しよう。
瑠衣　泊まるの？
雛乃　うん。
瑠衣　図書室に？
雛乃　うん。
瑠衣　それ実現可能？
雛乃　私を誰だと思ってんの。
瑠衣　2代目クラス会長。
雛乃　2年ぶりに、クラスメイト全員集合。
新名　そーれはちょっとやめて欲しいかも。

　新名、顔を出す。

新名　じゃーん。
2人　……。
新名　あれ？驚かないの？
瑠衣　出てくると思った。
新名　慣れ過ぎじゃない？
雛乃　にいな、同窓会イヤ？
新名　嫌じゃないし、みんなには会いたいけど、怖いんだよ。
瑠衣　怖い？
新名　未練が増えそう。
瑠衣　……。
新名　どんどん記憶が蘇ってきて、名残惜しくなっちゃう。私は保育士になりたかったし、結婚したかったし、振袖着たかったし、お酒も飲んでみたかったし。みんなに会ったら私、嫉妬に狂って鬼になるかも。
2人　……。
新名　だから、人間のうちに、わたし、大人しく帰ったほうが（不意に涙が込み上げる）、んーー……！

　雛乃と瑠衣、ソファに立膝で乗り、2人で新名を抱き寄せる。
　ぎゅっと、抱き合う3人。

新名　窓ジャマぁーーー。
雛乃　たぶん明日、タッキーが本を返しに来るから、だから、今日は3人でいっぱい遊ぼう？
新名　うん。遊ぶ。

瑠衣　体操服でも着てもらおうか。
新名　体操服が浮いてる感じ？
瑠衣　わかりやすいでしょ。
新名　透明人間だぁ。
瑠衣　あっは、いいね。騒ぎになるぞぉー？
雛乃　あれっ？ねぇうちらがさ、この窓から、あっち側に行ったらどうなるんだろう。
3人　……。
瑠衣　やってないか。
雛乃　やってない。
瑠衣　まぁ、どうなるか試してみるか。
新名　こっち来るの？
雛乃　うん。

2人、ソファの上に立つ。
照明、一瞬消える。

3人　え？
雛乃　このタイミングで？
瑠衣　どういう意味？
新名　いや、だから知らないんだって私。
雛乃　まぁ、どうせ見えない感じで終わるだろうから、
瑠衣　もう慣れたよね完全にうちら。
雛乃　うん。
新名　気をつけてよー？
2人　ハイハイ。

窓枠のレール部分に足をかける2人。
照明、4秒消えて点く。

雛乃　行くよ？
瑠衣　うん。

ここで滝川先生が約束の本を持って図書室にやってくる。足をかけている2人を見て、

滝川　えっ？
2人　せーのっ！！
滝川　ちょっと何して

2人が向こう側に降りきる前に照明が消え、暗闇。
3人、入学当初の制服姿（冬服）になる。鞄は滝川先生が回収して去る。

照明、点く。舞台は約2年3ヵ月前。懐かしい、セピア色の情景。
4月末。瑠衣と雛乃に続き、新名が図書室にやってくる。

瑠衣　絶対雛乃だよ。
雛乃　違う、あれは　にいなか瑠衣ちゃんだよ。
新名　いやあれは絶対瑠衣。
瑠衣　ないない、少なくとも私ではない。
新名　見てたよねー？
雛乃　見てた、微笑んでたよ。
新名　恋愛映画みたいに。
雛乃　先輩の熱い視線。
新名　恋、始まっちゃう？
2人　きゃー！（バシバシ叩き合う）
瑠衣　勝手に盛り上がんなよー。

図書室の奥から、本を数冊持って滝川先生が出てくる。

滝川　ねぇねぇ、
3人　？
滝川　図書室だから、（自分の唇に人差し指を当てる）。
雛乃　すみません。
瑠衣　先生それぜんぶ読むんですかぁ？
滝川　ううん。これは部活の準備。顧問なの、
新名&滝川　文芸部の。

2人、笑う。

雛乃　あ、そっか。文芸部にしたんだったね　にいな。
滝川　2人は何部に入ったの？
雛乃　私は演劇です。
瑠衣　あーしは美術部ですっ。
滝川　おー、文化部トリオだ。
瑠衣　知的ですよね。

シューン！3人、それぞれ知的なポーズ。

滝川　ふふっ、すっかり仲良しだね。
新名　先生も入れて4人組ね。
滝川　えぇっ？

シューン！3人、知的なポーズ。シューン！滝川先生もダサポーズをキメる。3人爆笑。
チャイム・照明薄明かり。雛乃、瑠衣、滝川先生は去る。
新名は本棚から本を取ってソファに座り、読み始める。照明戻る。
5月。図書室に瑠衣がやってくる。

瑠衣　にいなぁー。
新名　ん？
瑠衣　古典、赤点だった。
新名　古典？
瑠衣　古典。
新名　古典赤点？
瑠衣　韻踏んでるとか言わないでよ？
新名　古典赤点どうしてん。
瑠衣　さっぱりわかんないんだよー！
新名　期末テストで大逆転。
瑠衣　教えてー！
新名　厳しいよ？
瑠衣　がんばります。
新名　時給150円。
瑠衣　リ、リアクションに困る金額。
新名　とりあえず間違えたところを確認しよう。
瑠衣　神ーー。
新名　神でーす（ギャルポーズ）。
瑠衣　ギャルじゃん、
新名　神でーす（ギャルポーズ2）。
瑠衣　っは、しょーもな。
新名　は？ワレ神やぞ？
瑠衣　時給150円の？

2人、手を叩いて笑う。袖から「シーッ！」という声が聞こえる。口に手を当てる2人。
チャイム・薄明かり。新名、本を棚に返し、2人とも去る。
照明戻る。6月。中庭に雛乃が来る。新名、図書室に来る（2人とも夏服に戻っている）。
窓の向こうから、

雛乃　やっほー。
新名　お、なにしてるの？
雛乃　舞台セット作ってるぅー。
新名　え、かっけーじゃーん。
雛乃　でも大変だよー、6月イベント多すぎ。
新名　体育祭楽しかったねぇ。

雛乃　筋肉痛治った？
新名　治ってないー。
雛乃　三者面談もあるしぃ、来月あたまはテストだしぃー、あーー。
新名　新人公演、楽しみにしてるね。
雛乃　人集まるか心配。
新名　大丈夫、みんな誘うから。
雛乃　頼りにしてるよぅ。
新名　生徒会にも入ったからね。誘いまくってやるぜ、イッヒッヒ。
雛乃　悪い顔してるー！

笑う2人。チャイム・薄明かり。雛乃、去る。
7月。薄明りの状態のまま滝川先生が図書室出入口側から『きみの友だち』を持って来る。
新名に渡す。笑顔で頷く2人。滝川先生は去る。新名、ソファに座って読み始める。
少しの間のあと、遠くから蝉の鳴く声が聞こえてくると同時に照明が戻る。
終業式の日。やや間があって、図書室に雛乃と瑠衣（夏服）がやってくる。

雛乃　にいなー。
新名　おー。
瑠衣　カラオケ行こーぜー。
新名　あー……。
雛乃　どうかした？
新名　この本読みたいんだよねぇー。
瑠衣　えー、明日から夏休みだよ？時間たっぷりあるじゃん。
新名　続きが気になるんだよぅ。
雛乃　さすが一学期多読賞。
瑠衣　本の虫だ。
新名　虫は嬉しくない。
雛乃　確かに。
瑠衣　蝉とか。
雛乃　鳴きだしたねー。
新名　（中庭を見て）夏が始まったなぁって感じ。
瑠衣　遊び倒すからねぇ？
雛乃　わたし結構忙しいわ。
瑠衣　部活？
雛乃　部活ー。
瑠衣　あんたら趣味があっていいねー。
雛乃　先輩と遊べばいいじゃん。
新名　そうだよ。
瑠衣　進展ありませーん。
2人　えーっ。

瑠衣　まぁそれは置いといて、じゃあまた今度ね？絶対だよ？
新名　うん、また今度。
雛乃　気が変わったら連絡してね。
新名　うん。

雛乃と瑠衣、新名に手を振って去ろうとする。新名、同じ方向へ歩く。

瑠衣　ん？
新名　中庭で読む。
瑠衣　きょう曇ってるけど暑くない？
新名　風通しいいんだよ？木陰は気持ちいいし、池の鯉が風流だし。
雛乃　エェなんかオシャレー。
新名　まぁ8月になったら、さすがに無理だろうけど。
雛乃　気を付けてね。
新名　え？
雛乃　熱中症。
新名　あぁ。うん……。

瑠衣と雛乃、去る。新名、何か違和感がある。悪い予感がする。
立ち止まっていた新名、ゆっくりと去る。
新名、おずおずと中庭にやってくる。記憶が蘇っている。
それでも中庭中央に置かれた背もたれの無いベンチに腰掛ける（客席に背中を向けて）。
震える新名の背中が丸く、小さくなっていく。
そこへ、上手からフードを被った男が右手にナイフを持ってやってくる（男役は滝川先生が演じるが、人員が足るのであれば兼ねなくてよい）。
男、至近距離で刺突の構えをとったところで静止。

新名　ううっ……、死にたくないっ……！！

時が動き出す。男が新名の頸部右側にナイフを刺す、寸前、瑠衣の怒号が中庭に響く。

瑠衣　オオオォォォォーーーーイッッ！！！

瑠衣が駆け込んできて、男にタックル。倒れ込む2人。

校内放送（滝川）業務連絡、業務連絡、空調設備に重大な故障あり。本日の集会は中庭にて行います。担当者は確認してください。繰り返します、

雛乃　瑠衣ーッ！

雛乃も駆けてくる。

雛乃　何してんのっ……！

雛乃も犯人に覆いかぶさる。

取り押さえる現場は客席からは見えず、声だけが聞こえる。

瑠衣　暴れんなコラァ！！

雛乃　先生ーッ！！

新名も取り押さえに加わる。

新名　ファイトーッ！

3人　ファイトォォォォーーーー！！！

職員らが駆けつけてくる。

瑠衣　先生こっちッ！

雛乃　早くっ……！

瑠衣　ハイッ、ハイッ……いいですか？！放します！

瑠衣、現れる。

瑠衣　ハァッ、ハアッ……！

雛乃　いったーっ！

新名　雛乃？！

雛乃と新名、現れる。

ここで図書室の壁が真ん中で割れ、左右へと開く。図書室と中庭が1つになる。

舞台に白いモヤが流れ込んでくる。

雛乃　大丈夫大丈夫、指、踏まれただけ。

瑠衣　やば、マジで、やば、

雛乃　ねぇ瑠衣なんで突っ込んだりしたの！？2人とも死んでたかもしれないんだよ？！

瑠衣　だってもう刺す寸前だったんだよ、行かないわけないじゃん。もう、私ずっと後悔してたんだよ、この日から、ずっと、生きててなんにも楽しくなかった。でも今、間に合ったんだよ？

2人（にいなの顔を見る）

新名　なんで、2人とも、なんでいるの……？？

瑠衣　なんでって、ねぇ？

雛乃　……まぁ、この世には、不思議なこともあるってことで。

瑠衣　どうしても、受け入れられないことがあるってことで。

間。

新名　わたし、生きてていいの……？

２人　あたりまえじゃん！！

新名　う……、

瑠衣　にいなのいるべきところはここだよ。

雛乃（慈愛に満ちた笑顔で、）おかえり。

新名　うわぁぁぁぁぁぁぁぁん……！！！

新名、２人の胸の中で泣く。妨げるものは何もない。

柔らかな光が、３人を包み込む。

ここは並行世界か天国か。夢か妄想か。

いずれにせよ、３人は幸せになる。

幕。